

5. - 2) 検定結果 981×86 (WR×RIR) 雌系種鶏 (P S ♀) 25年度

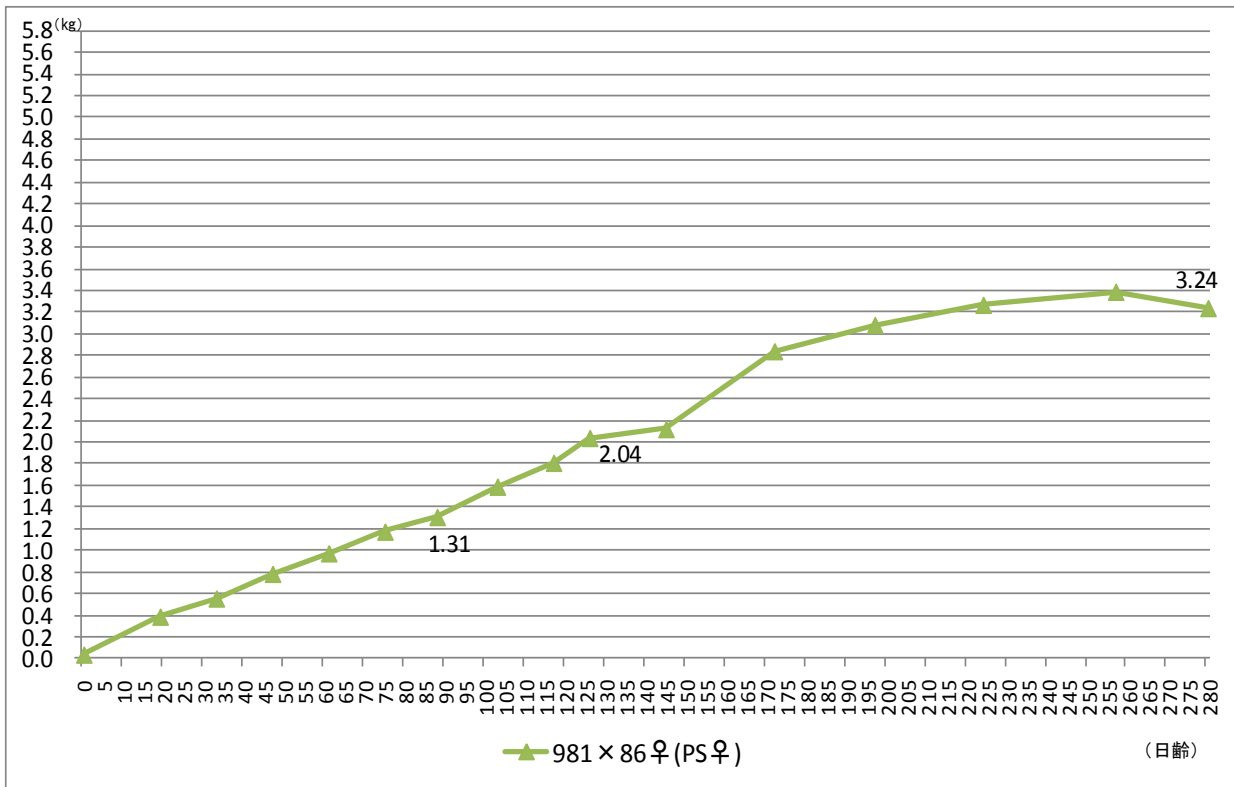
(1) 体重 (表3、図1参照)

体重は、981×86 (以下:P S) では12・18・40週齢を全羽数とし、その他の週齢を各20%抽出(各20羽)として体重測定した。

P Sは、20日齢からの制限給餌により、飼料給餌量に応じてなだらかに上昇し、12週齢で1.3kg、18週齢で2.0kgとなった。また、産卵開始後(初産日齢:145日齢)からの段階的な飼料給餌量の増加により、40週齢では3.2kgとなった。

(表3) <981×86♀> 「P S ♀」 体重の推移

	0週齢	2週齢	4週齢	6週齢	8週齢	10週齢	12週齢	14週齢	16週齢	18週齢	20週齢	24週齢	28週齢	32週齢	36週齢	40週齢
	0日	19日	33日	47日	61日	75日	88日	103日	117日	126日	145日	172日	197日	224日	257日	280日
平均体重	39	390	557	785	975	1,175	1,306	1,590	1,811	2,042	2,122	2,841	3,084	3,270	3,390	3,242
最大	46	422	618	905	1,202	1,406	1,804	2,142	2,160	2,623	2,640	3,291	3,651	3,745	3,974	4,265
最小	33	339	370	652	627	803	735	1,222	1,521	1,428	1,590	2,465	2,274	2,770	2,785	2,477
標準偏差	3.1	24.8	61.7	75.3	119.3	135.3	188.9	217.0	171.0	230.8	330.8	237.0	344.0	262.9	365.7	389.1
変動係数	7.74	6.37	11.06	9.59	12.24	11.52	14.47	13.65	9.44	11.30	15.59	8.34	11.15	8.04	10.79	12.00
数	20	20	20	20	20	20	95	20	20	94	20	20	20	20	20	86



(図1) 平均体重の推移

(2) 飼料要求率 (表4・5参照)

PSは20日齢から制限給餌を実施したため、期間中において飼料摂取時の餌溢しがあっても、床面に溢した飼料や糞も殆ど認められなかったことから、給餌した飼料の殆どを摂取したと推察され、飼料要求率はへい死鶏・淘汰鶏の飼料給餌量も含めて算出し、0～12週齢で3.4(同:49g/日/羽)、0～18週齢で3.5(同:56g/日/羽)となった。

(表4) 0～12週齢(0～87日齢)の飼料要求率

組合せ	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料要求率
				(kg)	(g/日/羽)	
981×86♀	95	1,306	120.1	406	49	3.38

(表5) 0～18週齢(0～126日齢)の飼料要求率

組合せ	期末羽数 (羽)	平均体重 (g)	増体量 (kg)	飼料給餌量		飼料要求率
				(kg)	(g/日/羽)	
981×86♀	94	2,042	188.0	662	56	3.52

(3) 羽色・外貌特徴

ア 6週齢時（羽色のみ、図2参照）

羽色は、その組合せの中で多く占めている羽色タイプを順に、羽数をカウントすることとした。

PSは、羽色タイプⅠ（黒褐色）が50.0%（98羽中48羽）、羽色タイプⅡ（横斑）が20.8%（98羽中20羽）、羽色タイプⅢ（褐色斑）が15.6%（98羽中15羽）、羽色タイプⅣ（淡灰色斑）が12.5%（98羽中12羽）、羽色タイプⅤ（黒色）が1.0%（98羽中1羽）を占めた。



（図2）PS♀（981×86♀）の羽色

イ 18週齢時（外貌特徴のみ、図3参照）

PSの外貌の特徴は、何れも体型が肉用種型（地鶏型）・単冠であり、耳朶色は羽色タイプ別に異なるが赤色と白色（一部分に白・赤が混在する個体有り）が混在し、脚色は黄色（一部分に褐色・鉛色が混在する個体有り）であった。

< P S ♀ (981×86♀) >



(図3-1) P S ♀ (981×86♀) の羽色・外貌の特徴



(図3-2) P S ♀ (981×86♀) の羽色・外貌の特徴



(図3-3) P S ♀ (981×86♀) の羽色・外貌の特徴



(図3-4) P S ♀ (981×86♀) の飼養状況(フラッシュ無)

(注：鶏舎内の本来の明るさでの飼養状況が解るようフラッシュ無しで撮影した。以下「フラッシュ無」は同様。)



(図 3 - 5) P S ♀ (981×86♀) の飼養状況 (フラッシュ有)



(図 3 - 6) P S ♀ (981×86♀) の飼養状況 (フラッシュ無)

ウ 40 週齢時（羽色のみ、図 4 参照）

羽色タイプⅠ（淡褐色斑）が 65.1%（86 羽中 56 羽）、羽色タイプⅡ（横斑）が 18.6%（86 羽中 16 羽）、羽色タイプⅢ（白褐色斑）が 9.3%（86 羽中 8 羽）、羽色タイプⅣ（褐色）が 3.5%（86 羽中 3 羽）、羽色タイプⅤ（黒色）が 3.5%（86 羽中 3 羽）を占めた。



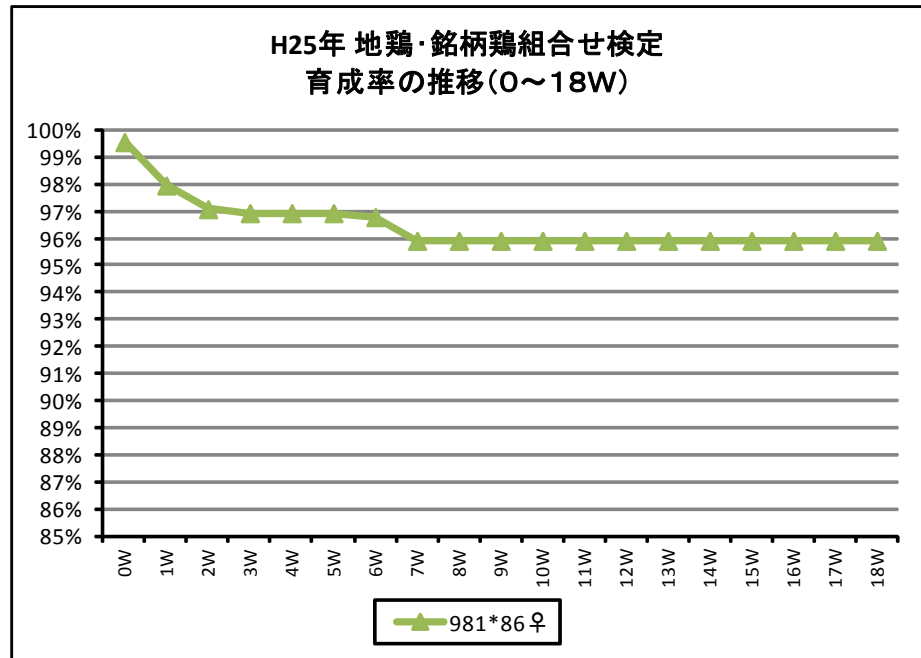
(図 4) P S ♀ (981×86♀) の羽色

(4) 育成率・生存率

ア 育成率（表 6、図 5 参照）

P S ♀は、育成初期（3 週齢）までに弱雛・腹水症などの要因でへい死したが、その後は目立った症状によるへい死は認められず、18 週齢の育成率は 95.9%となった。

	981*86♀
0W	99.6%
1W	98.0%
2W	97.1%
3W	96.9%
4W	96.9%
5W	96.9%
6W	96.8%
7W	95.9%
8W	95.9%
9W	95.9%
10W	95.9%
11W	95.9%
12W	95.9%
13W	95.9%
14W	95.9%
15W	95.9%
16W	95.9%
17W	95.9%
18W	95.9%



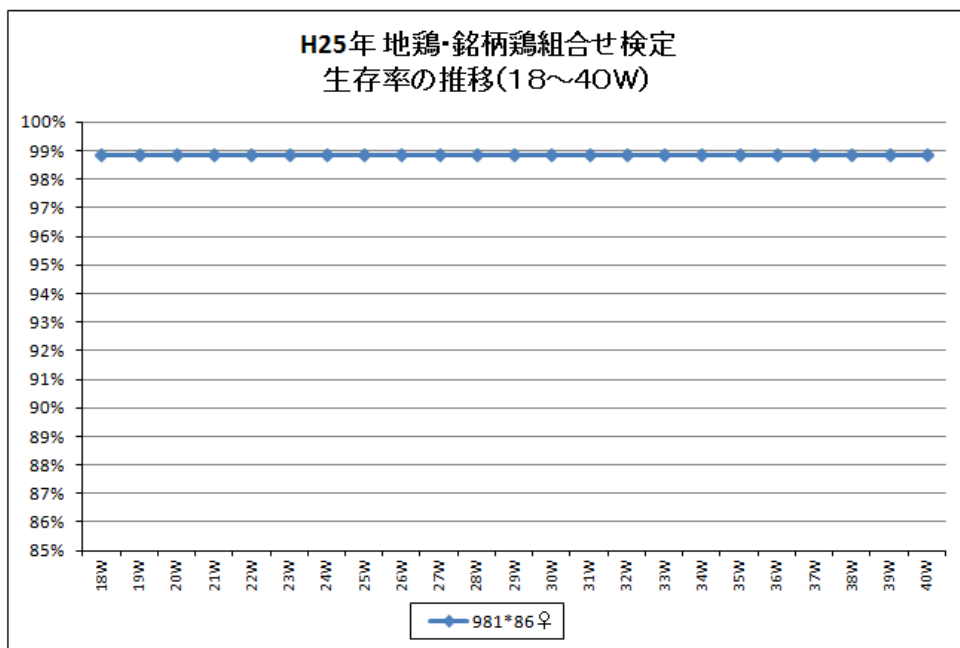
- ※ 0~126日齢(え付~126日齢)の育成率。
- ※ 日齢毎の育成率を各週で平均化した育成率であることに留意。
- ※ 18Wは126日齢時(1日間)の育成率。
- ※ 傷病によらない淘汰鶏(検査淘汰・誤鑑別等)は、育成率算出より除外(え付羽数から除外)。

(表 6、図 5) 育成率の推移

イ 生存率（表 7・図 6 参照）

生存率算出の起点である 127 日齢に 1 羽へい死（その他局所異常）し、その後検定終了（240 日齢）までへい死はなく、期間を通して 98.9%となった。

	981*86♀
18W	98.9%
19W	98.9%
20W	98.9%
21W	98.9%
22W	98.9%
23W	98.9%
24W	98.9%
25W	98.9%
26W	98.9%
27W	98.9%
28W	98.9%
29W	98.9%
30W	98.9%
31W	98.9%
32W	98.9%
33W	98.9%
34W	98.9%
35W	98.9%
36W	98.9%
37W	98.9%
38W	98.9%
39W	98.9%
40W	98.9%



(表 7、図 6) 育成率の推移

(5) へい死・淘汰要因 (表 8 参照)

PS ♀の要因は、CMのような運動器に係るものや、特に目立った要因はなく、280日齢までのへい死・淘汰率は 5.5%となった。

(表 8) へい死・淘汰率 (日齢/羽数)

症状	981*86♀ (PS♀)	
卵黄遺存	1.1%	(7/1羽)
腹水症	1.1%	(15/1羽)
その他局所異常	1.1%	(127/1羽)
弱雛	1.1%	(4/1羽)
剖検不能 (腐敗)	1.1%	(48/1羽)
計	5.5%	(5羽)

※ PSは40週齢(240日齢:H25/12/26)までのデータ。

※ へい死・淘汰率は、え付羽数から検査淘汰等(傷病以外の要因によるもの)を除いたものを補正え付羽数とし、その羽数に対する率とした。

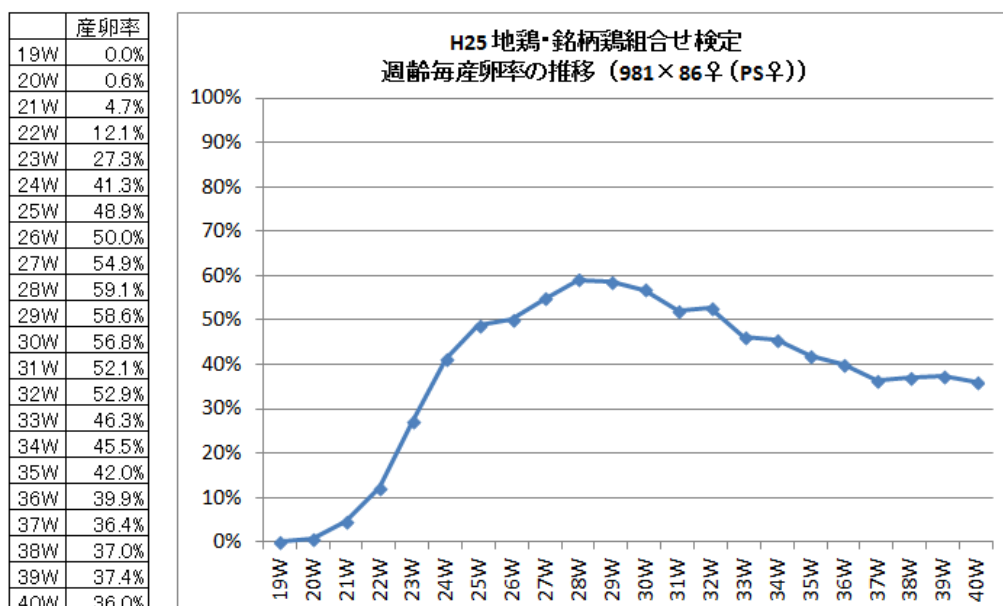
(6) 産卵性能

ア 各性能 (表 9)

項目	結果	算出根拠等	備考 (算出方法等)
50%産卵日齢	180日齢	179日齢: 46.7% 180日齢: 54.4% 181日齢: 57.8%	産卵率が50%に達した最初の日齢
ピーク産卵率	61.0%	197日齢: 65.9% } 198日齢: 60.2% } 61.0% 199日齢: 56.8%	産卵ピーク時3日間の平均産卵率
期間産卵率	44.4%	期間産卵個数: 2,689個 期間延べ羽数: 6,060羽	211~280日齢の期間産卵個数/期間延べ羽数

イ 週齢毎産卵率 (表 10・図 7 参照)

PS ♀の各週齢毎の平均産卵率は、20週齢よりゆるやかに上昇し、26週齢時に一時停滞したものの、産卵率に応じた飼料給餌量の調整等により再び上昇し、ピーク時の28週齢では 59.1%となった。ピーク後は、緩やかに低下し、検定終了時の40週齢では 36.0%となった。



(表 10、図 7) 各週齢毎の平均産卵率の推移

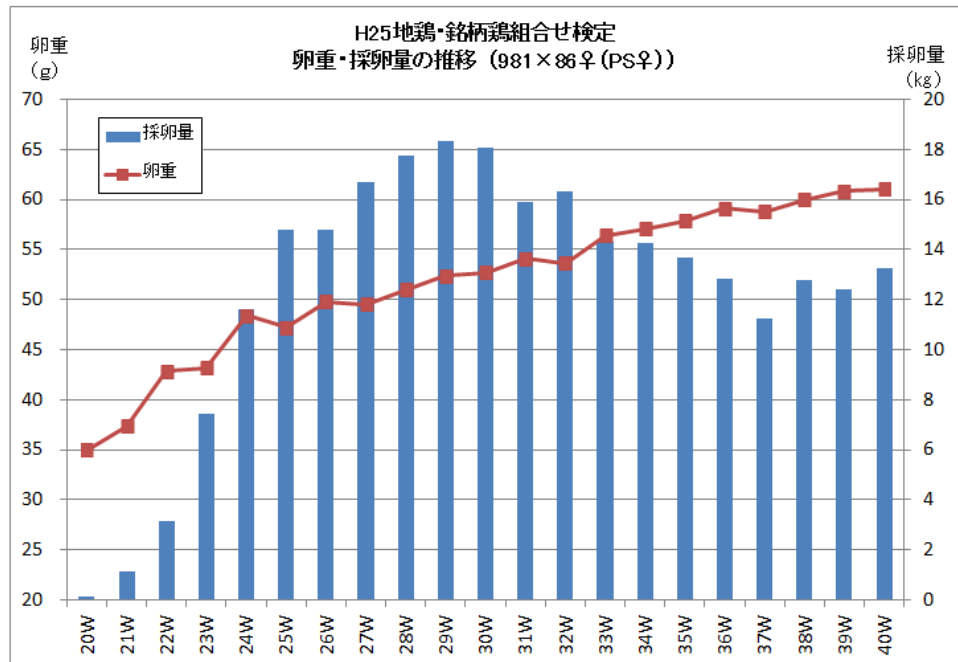
(7) 卵質性能

ア 週齢毎平均卵重・採卵量 (表 11・図 8 参照)

各週齢毎の平均卵重は、初産時の 20 週齢では 35 g 程度で、その後 28 週齢で 51 g に到達し、検定終了時の 40 週齢では 61 g となった。

採卵量は、26 週齢時に一時停滞したが、ピーク時の 29 週齢では 18.3 kg となり、その後減少傾向で推移し、37 週齢では産卵率低下を反映し 11.3 kg に低下したが、検定終了時 40 週齢では 13.2 kg となった。

	採卵量	卵重
20W	0.141	35.0
21W	1.112	37.3
22W	3.164	42.8
23W	7.409	43.2
24W	11.613	48.4
25W	14.784	47.2
26W	14.774	49.8
27W	16.694	49.5
28W	17.760	51.0
29W	18.345	52.3
30W	18.088	52.7
31W	15.914	54.1
32W	16.342	53.6
33W	14.303	56.4
34W	14.249	57.0
35W	13.683	57.8
36W	12.849	59.1
37W	11.265	58.8
38W	12.756	59.9
39W	12.399	60.8
40W	13.244	61.0



(表 11、図 8) 各週齢毎の平均産卵率の推移

イ 卵重・卵殻強度 (35 週齢時 : 表 12 参照)

(表 12) 35 週齢卵質検査結果 (H25. 11. 18~20 (3 日間平均) : 全数)

	平均	最大	最小	標準偏差	個数
卵重 (g)	56.3	69.0	47.1	3.98	113
卵殻強度(kg/cm ²)	4.19	5.82	2.17	0.71	106